

**[成果情報名]**リンゴ「あおり21」(商標名:春明21)の反射資材利用によるやけ病低減

**[要約]**「あおり 21」では、長期貯蔵後に果皮が褐変するやけ病が発生し、商品化率が低下する。反射資材を9月下旬から収穫期まで樹冠下に設置し、光環境を良好にするとやけ病の発生を低減できる。

**[キーワード]**リンゴ、あおり 21、やけ病、長期貯蔵、反射資材

**[担当]**青森産技セ・りんご研・品種開発部

**[代表連絡先]**電話 0172-52-2331

**[区分]**東北農業・果樹

**[分類]**普及成果情報

---

**[背景・ねらい]**

「あおり 21」は、収穫後 CA 貯蔵し翌年の4～6月に販売する後期販売用品種である。無袋栽培で長期貯蔵でき、食味は同時期に販売される有袋栽培「ふじ」と同等以上である。しかし、長期貯蔵後に果皮が褐変するやけ病が発生し、商品化率の低下を招いている。

これまでの調査で、着色の不良な果実にやけ病の発生がみられる傾向にあった。そこで、反射資材を利用して光環境の向上と着色促進を図ることで、やけ病の発生が低減できるかを明らかにする。

**[成果の内容・特徴]**

1. 反射資材を9月下旬から収穫期まで樹冠下に設置すると、長期貯蔵（CA 貯蔵約7か月）後のやけ病（図1）の発生率が低下する（表1）。
2. 反射資材の設置により着色は促進する（図2）が熟度は促進しない。

**[普及のための参考情報]**

1. 普及対象：リンゴ生産者
2. 普及予定地域：青森県内（約30ha）
3. その他

[具体的データ]



図1 貯蔵後のやけ病  
赤道部からがくあ部にかけての果皮褐変がやけ病

表1 CA貯蔵出庫時のやけ病発生果率

区	供試果数	発生果率 (%)
普通台樹	反射資材あり	459 / 4.6
	反射資材なし	197 / 9.6
		有意性 *
わい性台樹	反射資材あり	243 / 0.4
	反射資材なし	157 / 12.7
		有意性 **

- 注1 果実を2012年11月13日に収穫後、11月30日から2013年7月2日までCA貯蔵（酸素2.2%、二酸化炭素2.0%）し、7月9日の出庫時に調査を行った
- 注2 供試樹の普通台樹は2012年で高接ぎ6、7年あおり21/陸奥/マルバカイドウ20年生樹で、わい性台樹は6年生あおり21/青台3である
- 注3 反射資材ありの区は9月25日～11月13日まで樹冠下に、アルミ蒸着フィルムを設置した
- 注4 有意性は母比率の差の検定で、\*は5%水準で、\*\*は1%水準で有意差があることを示す

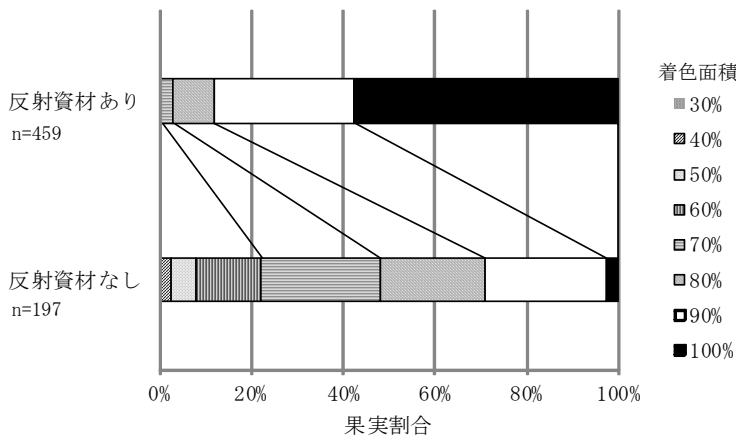


図2 反射資材の有無と着色程度  
表1の普通台樹について、果実を11月13日に収穫後、遠観により10%刻みで評価した

( (地独) 青森県産業技術センターりんご研究所)

[その他]

研究課題名：りんご新品種の登録と普及に向けた栽培特性の把握と生産技術の確立  
 予算区分：青森県交付金  
 研究期間：2012～2013年度  
 研究担当者：久保 隆、葛西 智、鈴木 均  
 発表論文等：東北農業研究 第67号